



J. FRONT RETAILING

2010年 11月15日

会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表取締役会長兼最高経営責任者
 奥田 務
 お問合せ先 経営計画事業統括部
 グループ広報・IR担当
 TEL 03-6895-0178

2010年10月度 J.フロント リテイリング 連結営業報告

1. セグメント別売上高（対前年増減率：％）

	10月度	9～10月度累計
百貨店業	▲1.5 (0.5)	▲ 3.4 (▲1.5)
スーパーマーケット業	▲5.2	▲ 3.3
卸売業	▲17.1	▲16.1
その他事業	10.0	13.5
連結合計	▲ 2.7	▲ 3.5

(注)百貨店業合計の()内は、松坂屋岡崎店(2010年1月31日営業終了)、松坂屋名古屋駅店(2010年8月29日営業終了)を除く既存店ベース。

2. 売上高概況

1) 百貨店業

- ・10月度の百貨店事業の売上高は、梅田店の大規模改装工事（面積が対前年約▲57%減）によるマイナス影響があったものの、ヤング・ヤングアダルト向けを中心に婦人コートやショートブーツなど秋冬物ファッション商材が堅調に推移したことに、外商お得意様向け店外催事が好調であったことなども加わり、大丸松坂屋百貨店直営店は対前年0.9%増、関係百貨店を加えた百貨店事業合計は同 0.5%増と、2ヶ月ぶりにプラスに転じた。

2) スーパーマーケット業

- ・ピーコックストアは、経堂店、上池袋店、泉北晴美台店などが好調を持続したものの、閉鎖店舗（常盤平店、茶山台店など計6店舗）の影響や衣料品の苦戦、たばこの値上げによる9月の駆け込み需要の反動減などにより対前年▲5.2%減となった。地区別では、首都圏が対前年▲5.2%減、関西地区が同▲4.1%減、中部地区が同▲8.9%減であった。

3) その他

- ・卸売業の大丸興業は、ホームセンター向け商材や食品など全般に苦戦し、対前年▲17.1%減となった。
- ・その他事業は、各種商業施設の内装工事の好調が持続したJ.フロント建装が牽引した。

お問合せ先	J.フロント リテイリング株式会社	グループ広報・IR担当
	TEL	03-6895-0178
	FAX	03-6674-7565

2010年10月度 百貨店業 営業報告

1. 売上高および入店客数（対前年増減率：％）

	10月度		9～10月度累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	28.6	77.3	26.9	75.1
大丸 梅田店	▲44.3	▲4.6	▲41.4	▲13.8
大丸 東京店	▲4.8	▲0.2	▲8.1	▲3.6
大丸 ららぽーと横浜店	6.2	-	1.4	-
大丸 浦和パルコ店	8.3	-	4.4	-
大丸 京都店	2.9	9.1	▲0.4	4.0
大丸 山科店	▲15.7	-	▲17.2	-
大丸 神戸店	▲4.2	▲1.5	▲4.9	▲0.9
大丸 新長田店	▲3.5	-	▲2.0	-
大丸 須磨店	9.0	-	5.9	-
大丸 芦屋店	1.3	-	▲1.6	-
大丸 札幌店	12.6	8.3	8.9	5.7
松坂屋 名古屋店	5.3	5.9	1.2	1.9
松坂屋 上野店	9.5	6.8	7.3	4.4
松坂屋 静岡店	3.2	4.8	▲1.5	1.6
松坂屋 銀座店	▲13.1	34.2	▲11.7	38.9
松坂屋 高槻店	▲21.9	7.5	▲21.1	7.2
松坂屋 豊田店	13.5	9.8	5.9	7.4
大丸松坂屋百貨店合計	0.9	11.4	▲1.4	8.0
博多大丸	▲2.5	▲3.2	▲2.2	▲2.7
下関大丸	▲1.0	▲1.5	▲2.2	▲1.5
高知大丸	1.9	1.7	▲1.5	▲0.2
百貨店事業合計	0.5	-	▲1.5	-

(注1) 合計の前年は、松坂屋岡崎店（2010年1月31日営業終了）、松坂屋名古屋駅店（2010年8月29日営業終了）を除く。

前年に松坂屋岡崎店、名古屋駅店を含めた10月度の増減率は、大丸松坂屋百貨店合計 対前年▲1.5%減、百貨店事業合計 同▲1.5%減。

9～10月度累計の増減率は、大丸松坂屋百貨店合計 対前年▲3.6%減、百貨店事業合計 同▲3.4%減。

(注2) 参考数値として、大丸松坂屋百貨店のうち10月度の増減率は、大丸合計 対前年▲0.4%減、松坂屋合計 同3.3%増。

9～10月度累計の増減率は、大丸合計 対前年▲2.1%減、松坂屋合計 同 0.0%増。

(注3) 前年度まで高槻店に計上していた大阪法人外商統括部の売上は、本年度から心齋橋店に計上しています。また首都圏外商統合により、

東京店の個人・法人外商、銀座店の個人外商の売上は上野店に計上しています。なお、外商移管の影響を除いた増減率は、

10月度は、心齋橋店 対前年23.5%増、東京店 同▲2.5%減、上野店 同 4.1%増、銀座店 同▲6.9%減、高槻店 同▲0.1%減。

9～10月度累計は、心齋橋店 対前年22.3%増、東京店 同▲6.0%減、上野店 同 1.9%増、銀座店 同▲4.8%減、高槻店 同▲1.4%減。

2. 大丸松坂屋百貨店直営店 商品別売上高（対前年増減率：％）

	10月度	9～10月度累計
紳士服・洋品	▲1.0	▲8.0
婦人服・洋品	4.4	1.1
子供服・洋品	1.2	▲0.4
その他の衣料品	▲4.9	▲8.3
衣料品計	2.8	▲1.0
身回品	▲2.4	▲6.1
化粧品	2.4	▲0.3
美術・宝飾・貴金属	▲7.3	▲3.5
その他雑貨	0.7	▲1.9
雑貨計	▲2.1	▲1.9
家具	▲5.9	▲4.7
家電	▲47.2	▲34.5
その他の家庭用品	6.5	5.8
家庭用品計	▲0.6	0.2
生鮮	▲0.4	0.0
菓子	▲0.8	▲2.2
惣菜	▲3.0	▲3.5
その他食料品	▲12.3	▲11.9
食料品計	▲3.6	▲3.9
食堂・喫茶	4.2	1.4
サービス	▲8.8	▲10.2
その他	22.0	20.2
合計	0.9	▲1.4

3. 売上高概況

婦人服・洋品は、気温の低下に伴いネックウェアやウールコートなど冬物アイテムが売上を牽引するとともに、松坂屋全店で開催した中日ドラゴンズ優勝記念セールによる嵩上げ効果も加わり、前年を上回った。紳士服・洋品は、大丸神戸店、東京店などで開催した紳士服バーゲン催事が好調であった。身回品は、婦人アクセサリーやブーツが売上を伸ばした。雑貨は、化粧品は好調であったが、美術品が苦戦した。食料品は、梅田店改装工事による面積減の影響などにより苦戦したが、食堂・喫茶は前年を上回った。